

日本気象学会 新刊

夏季大学教室 新しい気象学 テキスト (B5版60頁, 定価300円)

【内容】

畠山 久尚: 気象学の現状と将来	丸山 晴久: 雲と雨の物理
根本 順吉: 気象学概論	善如寺信行: 大気汚染と気象
宗像 明夫: 気象器械について	朝倉 正: 長期予報
竹内 清秀: 気象レーダー	菊池 幸雄: 大気大循環
関口 理郎: 気象ロケットによる 超高層気象観測 と気象衛星による世界気象監視	河村 武: 最近の気候学 吉野 正敏: 局地気象

本書は本年7月21日～27日気象庁講堂で開催した、気象学会主催の夏季講座のテキストとして編集されたものであるが、最近の気象学を展望する読物としても興味深く読むことができる。記述が平易で、内容も頁数に比して豊富である。購入希望者は、学会事務局（東京都千代田区大手町 気象庁内）に申し込まれるとよい。

8月例会のお知らせ

主 題: 気象学史と気象教育
期 日: 8月18日(金) 13時より
会 場: 気象研究所内講堂
講演題目

落合 弘明(鳥羽高校): 船員教育における気象のカリキュラムについて
竹内 丑雄(成蹊小): 小学校における気象教育Ⅱ
安藤 隆夫(東管調査課): 桜は10度で咲くか
奥田 穰(気研): 戦後日本の災害問題
根本 順吉(気象庁): 台風の語源について
白岡 久雄(気象庁): 環境論としての風土
久米 庸孝(気象庁): 「将門記」の気象学

なお計画しました「風土の概念」についてのシンポジウムは、今回は都合により中止いたします。

月例会のお知らせ

主 題: 気象災害
会 期: 昭和42年10月13日(金)
会 場: 未定(東京)
申込先: 東京都杉並区高円寺 4-35-8 気象研究所 奥田 穰

<6月号訂正>

209頁右6行目 Gallf(誤)→Galle(正)

表紙4頁10行目 通巻9号(誤)→通巻90号(正)